

共生と活性化をめざして

中期計画

会員用要約版

平成20年5月



社団法人黒石市シルバー人材センター

中期計画の趣旨 **今、なぜ、この計画が必要なのか！**

シルバー事業を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

黒石市シルバー人材センターが、市民の要望と期待に応え、会員の就業の機会と生きがいの高揚を目的とするシルバー事業を守り続け、発展するためには、今こそ時代に合った新しい感覚と抜本的な対策が必要になったため、この計画を作成することにいたしました。

押し寄せる少子高齢化の波

我が国の少子・高齢化が加速する中で、本市の高齢化率は、平成 18 年に 23.1%でしたが、平成 26 年には 27%に達し、市総人口の 4 分の 1 以上が高齢者という現象がやってきます。

すでに、高齢化の進行に伴って、高齢者世帯や一人暮らしが増加し、地域の状況や産業構造が大きく変化してきました。

高まる高齢者パワーへの期待

少子高齢社会では、若年労働者が少なくなり、高年齢者に対する労働力としての期待が高まって参ります。

近年は、そうした労働力不足に加えて、高年齢者の知識や経験・技能・技術を必要とする事業所などで、定年延長や継続雇用制度が拡大してきました。

シルバー人材センターは、会員としての就業やボランティア活動を通して、これまでの「福祉の受け手」から「社会の担い手へ」となり、地域福祉の向上と地域経済の活性化に貢献することから、行政や市民から大きな期待が寄せられています。

経済の低迷と補助事業の危機

シルバー事業は、国が公益法人の育成をめざして補助対象とされてきましたが、財政構造改革の推進によって補助基準が引き下げられ、S P 事業を手始めに廃止・縮小の方向に向かっています。

このため、全国それぞれの拠点センターは、自らが新たな施策を創意工夫し、早期に自主運営の道を切り開く必要に迫られています。

加入会員が減少

当センターは、平成 3 年に創立し、本年度で 16 年が経過しましたが、会員数は、これまで 564 人が最高で、その後は減少し続け、近年は 500 人を下回っています。

とくに、平成 19 年度には年間で約 40 人減少しましたが、20 年 3 月期だけで 85 人の会員が退会し、414 人まで落ち込みました。

本市の高齢者人口が増え続けている中で、相反する傾向にあることは、当センターが抱える大きな課題であり、今後、一般家庭を中心に増えつつある受注に応えられなくなることも心配されています。

自主・自立・共働・共助

会員が一体となって改革を進めます

センターが、様々な社会の情勢を乗り越えて、将来も安定して発展するためには、全会員が心をついに、互いに助け合い、自分たちの力で改革を進めて参らなければなりません。

そのためには、まず、絶えず笑顔と誠実さ、思いやりと謙虚さを失わず、一人ひとりが誇りを持って就業や諸活動に専念し、「さすがは黒石市シルバー人材センターだなあ」と市民に認められることが大切なのです。

仕事はみんなで分け合い平等に

シルバー事業の基本理念には、共働・共助という言葉があります。

一人の会員が、就業を独占したり長期間にわたって就業を継続することは、理念に反しますし、他の会員に仕事が回らず、不平等になります。

事務局では、今後、適正就業基準によって調整することになりますので、会員の方々には、ルールのご理解とご協力をお願いします。

また、希望する職種に就業できるように、講習会などに参加し、資格取得や技術・技能を磨く努力も大事です。

よい仕事をした後はみんなが気持ちいい

—シルバーの人たちは、とても一生懸命で、仕事もきれいで頭が下がる思いです。

事務局には、市民や発注者から、そういう声がたくさん聞かされます。

市民の方々も率直に喜んでくださり、事務局もホッとするのですが、何よりも当の会員本人がいちばん充実感を得られることでしょう。

時折、逆の事例が見受けられますが、ちょっとした失言や誤解、気のゆるみが、これまで積み上げてきた信頼を損ねてしまいます。

「気持ちがいい」ことを実践して、もっともっと生きがいを高め合いましょう。

組織の改革も進めます

センターの改革に当たって、組織の見直しも行います。

まず、理事の方々には、事業や運営方針を決定する役割のほかに、担当制や専門部会を設け、会員と一体になって活動を支援いたします。

また、同時に、積極的に事業所等を訪問し、PR活動や就業開拓に努めます。

会員互助会や広報・地域班・安全適正就業など各種委員会は、自主的な運営を強化し、新たな事業を展開することによって、さらなる活性化を期待しています。

庭木・造園班、薬剤散布班、除草班、草刈班、福祉家事援助班など職群班を設置し、グループリーダーの育成によって、会員による自主的な運営も促進します。

会員600人をめざそう!!



みんなで会員を増やそう

黒石市は、今後も人口が減少していきませんが、60歳以上の高齢者がますます増加していきますので、そのうちの5%の方を入会していただくとし、5年後の会員の目標数は、現在に比べて24%、118人増の604人としました。

センターは、ホームページやリーフレットなど、いろいろな手段でPRして参りますが、「会員一人がひとりを勧誘する運動」を展開し、みんなで目標を達成しましょう。

魅力あるセンターをつくろう

センターの会員を増やすには、もちろん、たくさんの仕事を受注することが大事ですが、何よりも、市民の方々が入会してみたいと思うような魅力がなくてはなりません。

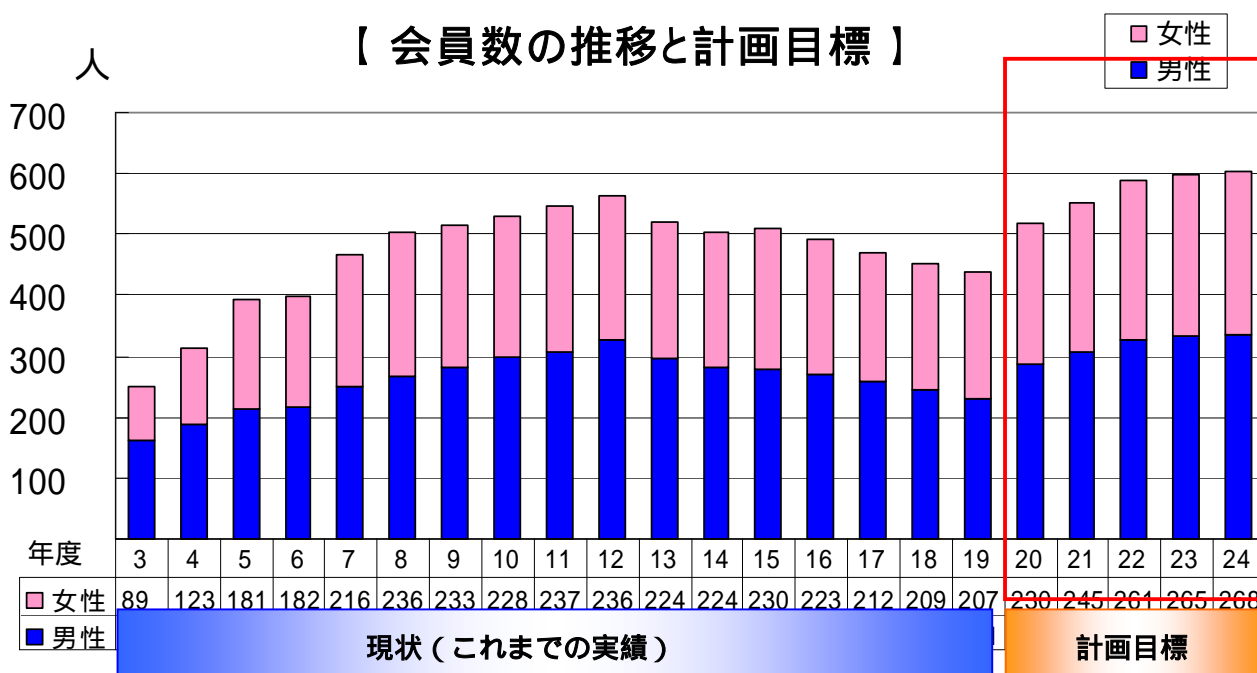
これまでの地域での清掃奉仕活動や施設慰問など、様々なボランティア事業に加え、市民の祭りやイベントに参加したり、多彩なサークル活動、若年層に受け入れられる就業メニューの開拓などを積極的に進めます。

生きがいに役立つ講習会やボランティア事業を増やします

センター会員はもとより、一般市民を対象に、仕事だけに限らず、日常生活面で役に立つような様々な講習会を行い、知識を広めて生きがいの高揚に役立てます。

また、清掃ボランティアに加え、大きな祭りやイベントに積極的に参加し、センターの存在をアピールして参ります。

【 会員数の推移と計画目標 】



契約の目標は2億円!!

当センターの事業実績は、設立以来、会員の積極的な活動と誠意ある対応によって着実に上昇し、平成 14 年度には、契約金額が約 2 億 2 千万円にまで達しましたが、近年は不況のあおりを受けるなど、1 億 7 千万円台に低迷しています。

本計画では、全会員の団結と多様な施策の効果が反映することを前提に、平成 24 年度において 2 億円を目標とし、現在の約 15% 増をめざします。

事業所訪問を強化し、受注を拡大します

役員と就業開拓推進員・事務局職員が連携し、積極的に企業や事業所を回り、シルバー活用の有利性や業務の提案を行い、受注の拡大を図ります。

会員も就業開拓に協力してください

事務局が、市民などから発注の電話を待っているだけでは、仕事は一向に増えません。地域を密着している会員が、自ら、知り合いの事業者や知人・隣近所などに対し、就業に結びつく情報を探り、就業開拓に努めることを期待しています。

もっとPRに力を注ぎます

市民や事業主などにセンターを良く知ってもらい、親近感を高めていただけるように、ホームページの開設、広報誌やチラシ・ポスター・リーフレットを作製し、毎戸並びに事業所等に配布します。

新たな就業を創出しましょう

会員の希望する仕事が無かったり、意外に市民が困っている作業もあるはず。

これからは、新たなサービスの掘り起こしを行なうと共に、会員が主体となって自主的な創作活動にチャレンジし、就業の拡大に結びつけるよう努めます。

【契約件数と契約金額の計画目標】

